

	チェック項目	事業者アンケート（8名中8名回答） 100%			保護者アンケート(29名中24名回答) 82.8%			
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7	1		20	4		①
	2 職員の配置数は適切であるか	8			24			②
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	7	1		15	8	1	③
業務改善	4 業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	8			/			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	8						
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	8						
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	8						
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	8						
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	8			24			④
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	8			/			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	8						
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	8			22	2		⑤
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	8			/			
14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	8							
15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	8							
16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	8							
17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	8							
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	8			/				
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	8							
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子供の状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	8							
21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	8							
22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか			8	/				

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	8						
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	8						
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	8						
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			8	1	15	8	⑥
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	8						
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	8			24			⑧
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	8						
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	8			24			⑦
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	8			24			⑨
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			8	8	15	1	⑩
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8			19	4	1	⑪
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	8			23	1		⑬
	35	個人情報に十分注意しているか	8			24			⑭
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	8			22	2		⑫
非常時の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	8						
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	8			24			⑮
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	8			23	1		⑯
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	8						
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	8						
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	8						
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	8						
満足度		子どもは通所を楽しみにしているか				24			⑰
		事業所の支援に満足しているか				24			⑱

## 2023年度目標に対する結果

検討項目	課題を踏まえた目標	達成手段	結果
4、9、12、14、18、20、28、29、30、31、32、33、36、38、41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの将来を見据えた支援の充実。</li> <li>・それぞれの年齢や発達にあった支援を提供し、利用者保護者ともにそれぞれのステージを自信を持ってクリアしていく経験が積めるよう、あたたかく見守り支えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特性や個別ニーズ、年齢に合った活動プログラムを検討し実施する。</li> <li>・声掛けや接し方に留意し自己肯定感を高める支援をする。</li> <li>・年齢(定型発達)と発達年齢の両方の視点から利用者の発達課題を把握し支援する。</li> <li>・研修への参加。(レクリエーション、保護者支援、傾聴、発達、言葉)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを購入し、楽しみながら平仮名を学習したり、面談時に準備に手間を掛けずに保護者に活動の様子の写真を見ていただいたりして好評を得られた。</li> <li>・職員が作成した写真カードで文字のマッチングをさせたり、カルタのように遊んだりして、それぞれの発達段階に応じたさまざまな活用ができています。文字への興味や理解が進んでいることを保護者に伝え、良いタイミングでSTの個別指導に通うことができている。</li> <li>・面談のあり方については、悩みつつもそれぞれのステージに応じた伝え方や助言の仕方などを話し合い、保護者にとって充実した面談の時間となるよう心がけた。</li> </ul>
8、11、15、16、17、40、43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が生き生きと働ける職場づくり。</li> <li>・自ら気付き問題提起して、小さなことでも共有して話し合える職場。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し送りや振り返りの時間を有効活用する。</li> <li>・自ら気付き問題を提起して、小さなことでも共有する。</li> <li>・オンライン研修の活用、ケア会議の定期的な開催を行い、専門性を培う。</li> <li>・非常勤職員がそれぞれの強みを活かせるような業務分担や、プログラムリーダーの依頼を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めに人工内耳についての勉強会をし、人工内耳の仕組みや装用時の聞こえ方について学んだ。実際の支援でも、本児の実際の様子を見ながら伝え方の工夫ができた。</li> <li>・非常勤職員にプログラムリーダーを依頼し、個々の強みを支援に活かす機会となった。利用者にとっても、発達課題に合った内容の提供ができた。</li> <li>・支援後の振り返りの時間の在り方について、常勤職員で話し合う機会を設け、単なる報告会にならないよう、質問を投げかけたり、必要に応じて方向性を示したりなど、充実した時間となるように意識した。</li> <li>・オンライン研修は興味のあるものは積極的に受講できているが、他の職員に研修報告するまでには至っていない。</li> </ul>
6、21、23、24、25、37、39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々との交流や他機関との連携。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の情報を収集する。</li> <li>・感染拡大防止に努めながら、ボランティアセンターなどと繋がりを持ち、地域にひらいた施設づくりを行う。</li> <li>・地域の防災のイベントなどに参加し、顔の見える関係づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社協を通じて駒澤大学経済学部が来所し、ロスマラワーを使ったポプリ作りを利用者で行った。学生の研究テーマについて一緒に考えたり、利用者との交流の機会になったりして、貢献できた。職員としても新しい気づきがあり、勉強になった。</li> <li>・町会の総会や防災のイベントに参加した。総会ではにじのこを紹介する時間を作っていたり、地域の方に知っていただくことができた。防災のイベントでは消防士と消防団員に消火器、消火栓、防災トイレの使い方などを教わった。地域の住民もたくさん参加しており、地域の防災について共通認識を得ることができた。</li> </ul>

## ▶2024年度の目標。

検討項目	課題を踏まえた目標	達成手段	結果
4、5、8、9、10、12、13、14、18、20、22、23、24、25、27、28、29、30、31、32、33、36、40、41	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの将来を見据えた支援の充実。</li> <li>・子育てに悩んでいるご家庭の力になれる事業所づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの年齢や発達に合った支援を提供する。</li> <li>・利用者の卒後の生活が具体的にイメージできるように見学や研修に参加したり、卒業生の話を聞いたりする機会を設ける。</li> <li>・個々の発達課題や年齢、環境などによって異なるさまざまな悩みに対して一緒に考えながら1つずつクリアしていける支援ができるようなスキルを学ぶ。</li> <li>・面談後に話を聞いてもらえてよかったと思ってもらえるよう、傾聴の姿勢や面談の在り方について学ぶ。</li> <li>・必要に応じて他事業所と連携し、移動支援や相談支援などについて情報提供を行う。</li> </ul>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p> <p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>
4、8、11、15、16、17、19、27、40、43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が学び、協力し、法人理念の現実に向けて働ける職場づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直面している問題や課題に対して悩んだままにせず、自ら発信して皆で方向性を見つけられるように、日々の振り返りの時間を充実させる。</li> <li>・外部研修を積極的に受講し、受講した後に報告や振り返りができるような時間を設ける。</li> </ul>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>
2、21、23、24、25、37、39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の安定に向けた事業運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営の状況を全職員に伝えて共通意識を持ち、個々にできることを考え協力しあえる職場づくりをする。</li> <li>・ひとりひとりのスキルを磨き、職員が少人数でも良い支援ができる工夫をしていく。</li> </ul>	<p>※今後の取り組みを経てから、結果を公表します。</p>